

平成 30 年度卒業証書授与式

式 辞

厳しかった寒さもようやく和らぎ、揖保川の流れも軽やかに響いて、心和む今日の佳き日に、宍粟市副市長中村司様、同窓会長志水宣之様、PTA会長阿山和彦様を始め多数のご来賓、そして各ご家庭の皆様方ご臨席のもと、兵庫県立山崎高等学校第 71 回卒業証書授与式を厳肅、かつ盛大に挙行できますことは、本校教職員・生徒一同誠に光栄の極みにて、高い席からではございますが、心よりお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与致しました第 71 回生 219 名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。校訓「希望・英知・敬愛」のもと、皆さんは学業に部活動にひたすら研鑽と精進を重ね、本日栄えある卒業の日を迎えられました。本校を巣立って行かれる皆さんの一人ひとりに、心から讃辞を贈ります。また、ご家族の皆様方におかれましては、深い愛情を持ってこれまで大切に守り育てて来られたご苦勞が今ここに実を結んだ喜びに対し、心よりお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんの胸の中では、今高校時代の様々な思い出が走馬灯のように駆け巡っていることでしょう。入学直後の集団宿泊訓練、各年度の文化発表会や体育大会、北海道での修学旅行。そして勉強や部活動に懸命に取り組んだことなど、どれをとってもその時々流した汗や涙でさえ、今となっては掛け替えのない生涯の良き思い出となっていることと思います。

私自身は、皆さんと過ごしたのはこの 1 年間だけでしたが、昨年文化発表会で聞かせてくれた 3 年生諸君の素晴らしい合唱のハーモニーは今でもこの耳の中に残っています。そして、2 学期の中心行事として体育大会がありましたが、全校生が全く力を抜くことなく、全ての競技や演技に対して、出場する者も応援する者も一丸となって取り組んでくれたのですが、特に 3 年生諸君は、大縄跳びや綱引きという「集団の力」を要する競技で 3 年間培ってきた「団結力」を遺憾なく発揮し、後輩たちに素晴らしい模範を示してくれました。今にして思えば、あの時の力こそがその後現れた進路実現での輝かしい成果の前触れであったのだと確信しています。進路実現は正に団体戦。その、学年全体としての総合力を発揮してくれたのが 71 回生諸君でした。

部活動やその他の活動に目を転じて、同じように皆さんは青春の炎を燃やし続けてくれました。8 月のお盆、3 年生の頑張りを原動力とした吹奏楽部は、西播金賞と共に県大会に駒を進めて見事金賞を勝ち取り、本校近年の歴史に大いなる金字塔を打ち立ててくれました。また、3 年生を中心とする男子ソフトボール部員 4 名が国民体育大会への出場を果たしたことに拍手を送りたいと思います。そして、12 月になって「ぼうさい甲子園」で二年連続「ぼうさい大賞」、つまり高校の部での全国優勝を 2 年連続で頂くという快挙を為し得たことも、先輩から受け継がれてきた活動を、今の生活創造科 3 年生諸君が地道に続けてきたことが評価されての榮譽でした。

さて、卒業生の皆さんが本校を巣立ちゆく今年、平成 31 年は日本国にとっても代替わりが行われる重要な節目の年であり、4 月 1 日に新しい元号が発表され、5 月 1 日には現在の皇太子、なるひと徳仁親王殿下が第 126 代目の天皇に即位されます。皆さんが生まれてから今日まで過ごして来た「平成」という時代の意義をしっかりと胸に刻むと共に、今年行われる幾つかの儀式を目にしつつ、古代から連綿と続いて来た我が国の歴史と伝統に思いを馳せる貴重な機会として頂きたいと

願っています。世界の国々数あれど、その歴史が全く途切れることなく、これ程長く続いて来た国は日本以外にはありません。加えて、この平成の時代に私たちが経験した2度の大地震の中で、混乱した状況にありながらも暴動を起こさず、長い列を作ってじっと食料品や飲料水の配給を待つ日本人の姿は、奇跡として世界中に広く紹介され、大いに称賛されたことは、皆さんもよく知っていることと思います。我が国が誇るべき点は多々ありますが、これは長い歴史の中で培われて来た、私たち日本人の「美質-美しい特質」の一つです。時代が新たなる展開を示すこの年を、日本人としての誇りを再認識する機会として頂ければと念じています。

本日、本校を卒業して、明日から新たなる道を歩み始める71回生の皆さんに、非常に簡単ではありますが、これからの長い人生を力強く生きていく上で大事な言葉を^{はなむけ} 餞として贈ります。それは、「上を向いて歩こう」という言葉です。昭和40年代、私たちが子供であった頃に歌手の坂本九さんが歌っていた有名な歌のタイトルですが、皆さんもあのメロディはよく知っているのではないかと思います。これからの人生、楽しいことも沢山あると思いますが、辛く苦しいことにも沢山出会うと思います。しかし、どんなに苦しくとも「上を向いて歩こう」。辛くて悲しくて、涙がとめどもなく溢れることもあるでしょう。しかし、その涙がこぼれないように「上を向いて歩こう」。若いうちは、失敗をすることが何度もあるでしょう。しかし、失敗をしても挫けることなく「上を向いて歩こう」。坂本九さんは、そんな素晴らしいメッセージを歌に乗せて、私たち当時の日本人を大いに勇気づけて下さいました。残念ながら、昭和60年8月のあの航空機事故で突然お亡くなりになったのですが、私は兵庫県が主催する青年洋上大学に参加し、中国から帰って来る船の中で、日本海の上であの悲報に接しただけに決して忘れることが出来ません。簡単ですが、力強いメッセージを持つ「上を向いて歩こう」という言葉をしっかりと胸に刻んで下さい。

最後となりましたが、かつて私たち、昔の山高生が校歌として歌っていた「山崎高等学校生徒会歌」の歌詞、第3番目を朗唱し、31回生である私から71回生である卒業生の諸君へ、40年の時を経て生徒会歌に込められた山高のメッセージを伝えたいと思います。

ああ青春の ^{まゆ}眉あげて いとも栄えある 山高の
歴史を ^{とわ}永久に 飾るべく 尊き使命 ^{にな}担ひつつ
進む ^{ゆくて}前途に 光あれ

私たちは縁あってこの山崎高校で出会いました。3年間を共に過ごすことができたことを喜び、ここまで育てていただいたご家族の方々、陰になり日向になり支えていただいた地域の皆様方に感謝申し上げ、卒業生の皆さんのより一層の飛躍と、限りなき未来に幸多かれと願いつつ、式辞といたします。

平成31年2月28日

兵庫県立山崎高等学校

第37代校長 原 田 尚 昭